

消費者動向調査 No.100

テーマ「夏のボーナス使いみち調査」

調査時期 平成 19 年 5 月

調査対象 福岡県内のボーナスがある家庭の主婦 500 人
(うち回答者 470 人、回答率 94.0%)

回答者区分

A.年代

	%
20代	11.6
30代	20.3
40代	30.6
50代	26.6
60代	10.9

B.あなたのご家庭で

ボーナスがあるのは

	%
夫だけ	49.8
妻だけ	9.9
両方	40.3

西日本シティ銀行

[調査結果本文]

最近の上場企業の決算発表によると、円安や堅調な輸出に支えられ輸出企業の好業績が続くほか、大都市の地価回復から不動産関連企業が好決算となるなど企業業績は好調を維持しているようです。企業業績を反映して雇用・所得環境の改善も進み、景気回復の恩恵が徐々に家計部門に波及してきたともいわれています。一方、少子高齢化の進展や年金などの社会保障問題など将来の不安も増しているようです。

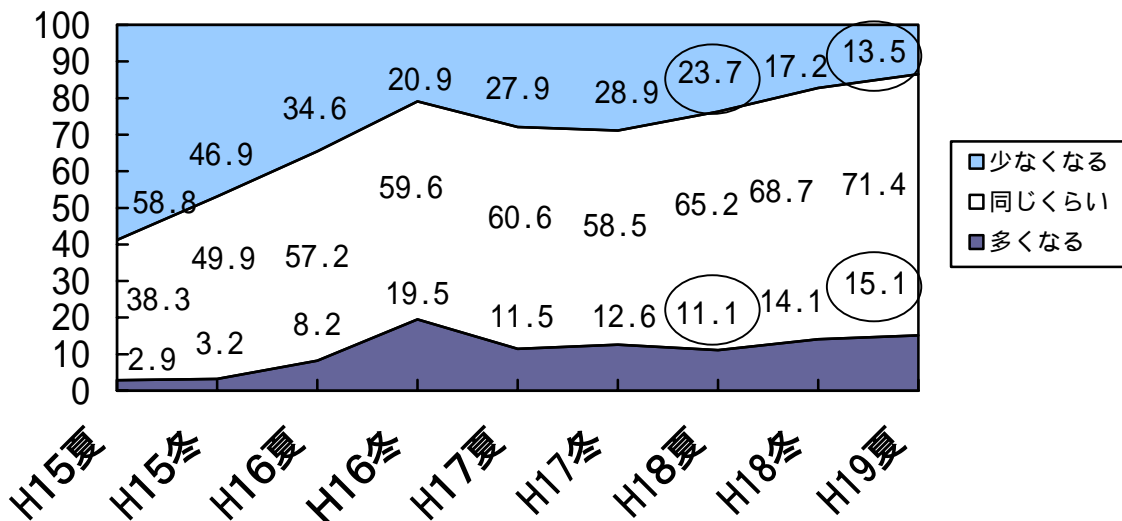
このような環境の中、消費者はこの夏のボーナス受給額をどのように予想し、どのように消費しようと考えているのでしょうか。また、夏のボーナスの使いみちについて、これまでと違った傾向は表れつつあるのでしょうか。ボーナス受給を間近にひかえ、福岡県在住の主婦を対象に夏のボーナスについての消費動向をたずねました。

**今年の夏のボーナス、昨年夏と比較して“多くなる”が4.0ポイント増加。
“少なくなる”が10.2ポイント減少。景気回復はボーナスへ波及。**

今回の調査で、夏のボーナスが昨年より“多くなる”と予想する割合が4.0ポイント増加、“少なくなる”が10.2ポイント減少。平成18年夏、18年冬、今回とボーナスが多くなるとの予想が徐々に増えてきており、景気回復の波はボーナスへ波及してきているようだ。

[グラフ1：夏のボーナスは昨年に比べどうなると予想していますか]

(単位：%)



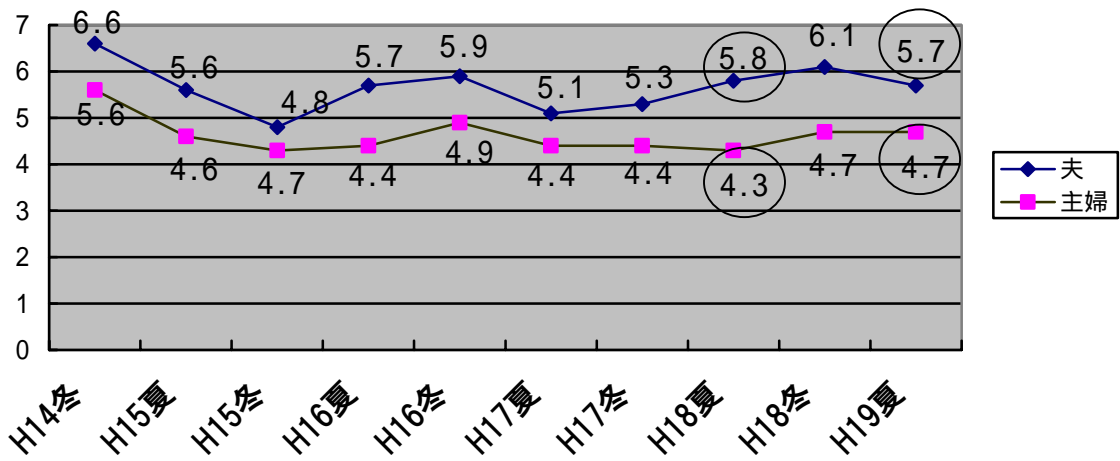
◆ 夏のボーナス、自由に使える金額は、主婦は4.7万円、夫は5.7万円とほぼ横ばい。

夏のボーナス、主婦が自由に使える金額は平均4.7万円（昨年夏比+0.4万円）、夫が自由に使える金額は平均5.7万円（昨年夏比 0.1万円）と伴に横ばい基調。ボーナスは増えそうだが、まだまだ財布の紐は固い慎重な姿勢がうかがえる。

[グラフ2：自由に使える金額はどれくらいですか]

(単位:万円)

〈ピーク〉
夫 :9.3万円(H9)
主婦:7.9万円(同)



[表1：主婦と夫が自由に使える額]

(単位：%)

	主婦	夫
1万円未満	12.7	7.5
1～3万円未満	33.0	21.8
3～5万円未満	29.3	33.9
5～10万円未満	16.4	23.1
10～20万円未満	6.9	12.6
20～30万円未満	0.9	1.1
30～40万円未満	0.6	0.0
40～50万円未満	0.0	0.0
50万円以上	0.2	0.0
平均	4.7万円	5.7万円

夏のボーナスの使いみち予定は「預・貯金」がトップ。「旅行・レジャー」が平成16年夏以来の2位。

夏のボ - ナスの支出予定トップは今回も「預・貯金」で昨年夏と比較すると 11.7 ポイント増加、貯蓄意識は依然として強いようだ。一方「生活費の補てん」が昨年夏比 13.8 ポイント減少し 2 位から 5 位へ、「子供の教育費」が 9.4 ポイント減少し 3 位から 4 位へ後退、「旅行・レジャー」が平成 16 年夏以来の 2 位となる。

[表 2：夏のボーナスは何に使う予定ですか（3 つまで）]

（単位：％）

項目	全体
預・貯金	57.9
旅行・レジャー	32.8
住宅ローンの返済	28.1
子供の教育費	25.1
生活費の補てん	23.4
衣料品等の購入	23.4
自動車（ローン返済含む）	18.5
耐久消費財の購入	10.2
お歳暮	10.0
両親・子供への小遣い	6.8
クレジットの返済	6.4
その他	23.4

[表 3：夏のボーナスは何に使う予定ですか（時系列比較）]

（単位：％）

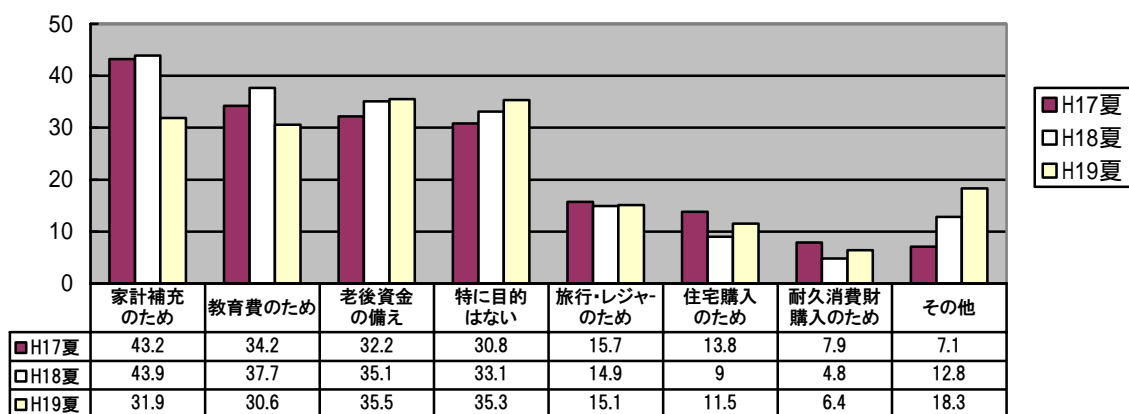
	H16 夏	H17 夏	H18 夏	H19 夏
預・貯金	48.6	48.7	46.2	57.9
旅行・レジャー	34.8	32.6	32.4	32.8
住宅ローンの返済	32.2	28.5	27.6	28.1
子供の教育費	28.7	27.6	34.5	25.1
生活費の補てん	33.4	34.9	37.2	23.4
衣料品等の購入	23.2	22.6	21.8	23.4

夏のボーナス貯蓄の目的で“老後資金の備え”が初めてのトップ。老後への不安が表れているようだ。

“夏のボーナス貯蓄の目的は何か？”の問いには、“老後資金の備え”が初めてのトップとなった。一方前回トップの“将来の家計補充”が昨年夏比12.0ポイント減少し3位に後退。雇用・所得環境の改善からなのか家計補充などの目的は減少しているものの、年金などの社会保障問題など将来不安を反映してか老後資金を貯蓄目的とする人が増えているようだ。

[グラフ3：将来の何のために夏のボーナスを貯蓄しますか（2つまで）]

（単位：％）



[表4：将来の何のために夏のボーナスを貯蓄しますか（年代別）]

（単位：％）

	全体	20代	30代	40代	50代	60代
家計補充のため	31.9	31.5	36.8	29.4	38.7	15.7
教育費のため	30.6	24.1	47.4	46.9	14.5	2.0
老後資金の備え	35.5	1.9	15.8	32.9	54.0	72.5
特に目的はない	35.3	44.4	30.5	31.5	38.7	39.2
旅行・レジャーのため	15.1	18.5	15.8	11.2	12.1	29.4
住宅購入のため	11.5	35.2	16.8	10.5	3.2	0.0
耐久消費財購入のため	6.4	9.3	5.3	7.7	7.3	0.0
その他	18.3	25.9	17.9	15.4	18.5	19.6

夏のボーナスを貯蓄する際、参考にするものは引き続き「金融機関の店頭セールス」がトップ。「新聞・雑誌」が2位。「インターネット」が3位。

主婦が夏のボーナスを貯蓄する際、参考にするものは引き続き「金融機関の店頭セールス」がトップ。金融自由化の進展に伴いさまざまな金融商品を選択できる一方、複雑な商品も増えているなか、やはり顔の見えるコミュニケーションが重視されているようだ。

[表5：夏のボーナスを貯蓄する際、参考にするものは何ですか(2つまで)]

(時系列比較 単位：%)

	H18 夏	H18 冬	H19 夏
金融機関の店頭セールス	50.4	50.2	41.5
新聞・雑誌	28.5	28.4	26.8
インターネット	18.4	12.2	18.1
テレビCM等	12.3	14.5	15.5
ポスター・チラシ等	18.2	16.4	14.0
金融機関の電話によるセールス	7.9	15.8	13.6
その他	34.1	25.4	32.1

以 上

この調査に関するお問い合わせは
西日本シティ銀行 広報文化部 堺 まで
TEL 092-461-1869